

自家発電設備をトータルコーディネート 総合エンジニアリングの株式会社シンワ

今回は、自家発電設備の総合エンジニアリング企業「株式会社シンワ（東京都中央区築地6-5-9、小又 陽吉社長）」の城南事業所（営業部・城南工場）取材した。同社は非常用や常用のディーゼルエンジン・ガスタービン・ガスエンジンの自家発電設備の販売、据付工事、メンテナンスなどの事業を自社で一貫して実施している。昭和23（1948）年1月、旧新潟鉄工所傘下のサービスステーションとして創業を開始して以来、今年で創業62年を迎えた。株式会社シンワの取り組みを紹介する。

創業の経緯

シンワの創業日は昭和23（1948）年1月15日。62年前、新潟鉄工所を退職した創業者が元の会社側から認可第一号のお墨付きを得て設立した『ニイガタ・ディーゼル・サービスステーション』新和内燃機工業所が、神奈川県三崎港で漁業関係者相手にディーゼルエンジンの整備を開始した日である。創業者は初代社長の小又 秀吉氏。今の二代目社長の小又 陽吉氏の実父である。そもそも初代社長秀吉氏は当時超難関と謳われる「一等機関士」の国家資格を取得した後、戦前から戦後にかけて、船舶業界を舞台に活躍していた。エンジンメーカーから見れば、顧客となる方である。長年にわたり一等機関士としての経験を培ってきた秀吉氏は、旧知の仲だった新潟鉄工所経営陣から、船舶業界の人脈やユーザー側の視点に立って自社エンジンを評価できる力量などが高く評価され、請われて同社へ転職した。

秀吉氏は入社後、船用ディーゼルエンジンの製作に携わるとともに、日頃はサービスエンジニアとして造船会社や全国津々浦々の船主を対象に製品の販売拡大

企業理念

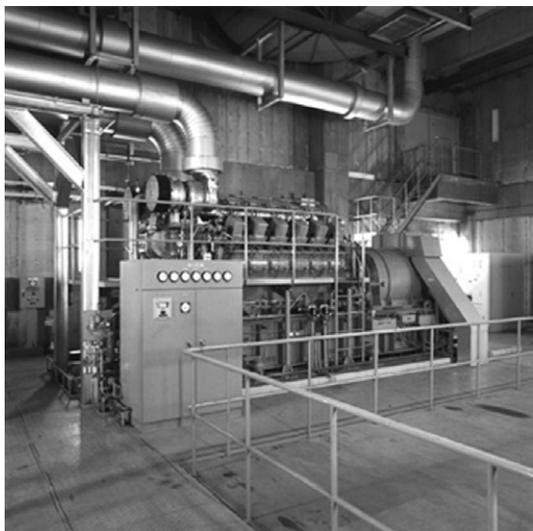
誠実と創造

和をもって参加し、
英知をもって創造し、
勇気と誇りをもって挑戦し、
豊かな未来を拓こう

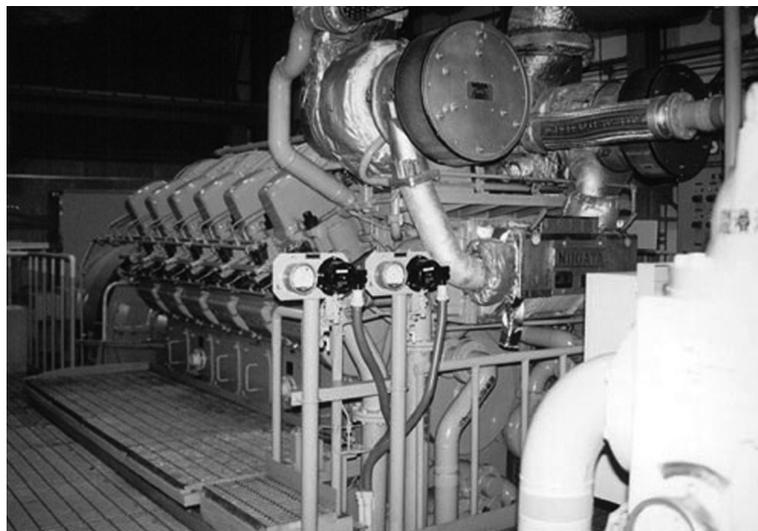
のため営業活動に専念していた。常日頃顧客に接して体得したことから、納品後の「アフターサービス」が如何に大切であり、これをないがしろにして製品の販売拡大はあり得ないとの確固たる信念を持ち、自らがこの重要な役割を果たしていくことこそ、新潟鉄工所の発展に寄与するものであると確信し、同社に具申して全面的賛同を得たので、新潟鉄工所を勇退し独立して自分で附帯サービス業務の事業化に取り組むこととした。

新和内燃機工業所の設立

小又 秀吉氏は昭和28（1953）年1月20日、新潟鉄工所製エンジンや自家発電設備の据付工事、点検整備を事業目的とする「株式会社新和内燃機工業所」を設立した。なお、創立以来、東京・丸の内にあった本社事務所は、東京都中央卸売市場築地市場へ遠洋マグロ船が多数入港することに合わせ、東京電力（株）が離島発電所の管理業務を銀座支社で行っていた関係上、利便性を考え、昭和34（1959）年6月、東京・築地に移転し今日まで



水処理施設に納入した非常用ディーゼル発電設備



離島の発電所施設に納入した常用ディーゼル発電設備



城南事業所の全景

至っている。社名は、製品供給者である新潟鉄工所の
新の文字と、和合して事業の発展を目指すという理念
の頭取である和の文字の二文字を採った。さらに平成3
(1991)年2月16日、社名を「株式会社シンワ」と改称した。

一連の社名から推察できるように同社は船用ディー
ゼルエンジンのトップランナーだった旧新潟鉄工所の
アフターサービス部門として、また陸用機関の据付配
管工事部門として、新潟鉄工所との縁が深い。シンワ
は現在も、旧新潟鉄工所の原動機事業を承継した「新潟
原動機株式会社」との間で取引を続けている。また、シ
ンワは陸用ディーゼル発電設備の据付工事のパイオニア
として旧新潟鉄工所の離島常用発電設備、原子力発電
所の非常用発電設備の据付・メンテナンス工事を担っ
てきた。

同社は現在、大手国産エンジンメーカーのディー
ゼルエンジン、ガスエンジン、ガスタービンの自家発電
設備の設計施工から据付工事、メンテナンスまで自社
で一貫して実施するなど自家発電設備の総合コーディネ
ーターとして社会貢献を果たしている。

生産拠点等について

シンワは現在、東京都中央区築地6丁目にある「本社」
のほか、「城南事業所(営業部・城南工場)」、「三崎事業所
(三崎工場)」、「茨城営業所」を設けて「本社・2事業所・1
営業所」の活動体制を採用している。ほかに関連企業と
して、宮城県気仙沼市に「株式会社新和エンジンサービ
ス」と「株式会社新和機械」がある。同社の生産拠点の第
1号工場は昭和30(1950)年9月、東京都大田区蒲田本町2
丁目に建設された「蒲田工場」であった。しかし、平成5
(1993)年5月、蒲田工場が手狭になったため代替工場と
して東京都大田区城南島4丁目に「城南事業所」を新設、
また、平成20(2008)年1月に「城南工場第2工場」を新設
した。一方、昭和45(1970)年4月、神奈川県三浦市岬陽
町5丁目に竣工した「三崎工場」は修繕工場として今も操
業している。平成3(1991)年12月に茨城県ひたちなか市
田彦に「茨城営業所」を新設した。なお、平成12(2000)
年11月、国際的な品質保証規格「ISO 9001」の認証を取
得している。



小又 陽吉社長のメッセージ

お客様のご要望にお応えできる提案力と技
術力をもって、最適な製品を提供し、深い信
頼関係を創造いたします。創業以来「現場第
一主義」を実践しています。また、高い技術
力に基づく「自社一貫生産」を実施してい
ます。企業理念にあるとおり、お客様との信頼
構築を最優先する経営理念を貫いています。

豊富な納入実績

昭和20年代初め、国内では戦後の本格復興が進展す
るに連れて漁船の建造件数も増加の一途をたどった。
船用主機である動力用や船用補機である発電設備用の
ディーゼルエンジンの需要が増加した。一方、電力不
足がまだ続いていた時代であり、生産工場では電力確
保を図る目的で自家発電設備の需要が高まり、ディー
ゼルエンジンの自家発電設備の据付工事、定期点検、
メンテナンスなど附帯サービス業務も繁忙を極めた。

昭和29年頃、東京都庁関係の河川排水ポンプ駆動用
陸用ディーゼル機関据付工事に参加し、さらに名古屋
市水道局及び岐阜県河川流域の排水ポンプ用ディー
ゼル機関据付工事が漸増したため、新潟鉄工所の要望に
より名古屋市に当社の駐在員を常駐させるなど、シン
ワは創業以来、数多くのポンプ用陸用ディーゼル機関
据付工事の受注実績を持っている。昭和34(1959)年
にNHK北海道野幌ラジオ放送所の750kVAディーゼル
発電機据付工事を皮切りとして、昭和49(1974)年ま
でに北海道～沖縄の全国放送局の予備電源装置として
ディーゼル発電機の新設ならび移設を含め計58台施工
した。また、電力会社の原子力発電所の非常用電源と
して、化学工場やセメント工場など各種生産工場の常
用電源として、大型ディーゼル発電設備をそれぞれ複
数台施工した。さらに南米ボリビアでは海拔3,000mの
高地で675kVAディーゼル発電機×3台の据付・指導を
するなど、国内外で創業以来、ディーゼルエンジン、
ガスタービン、ガスエンジンの自家発電設備の据付工
事は3,130台、223万馬力の豊富な実績を持っている。